

鳥居峠の逃避行

松下幹生

中山道の 山の中
慌てた様子の 二人連れ
手に手を取って ひた走る
天下の難所 鳥居峠を
息もつかずに 逃避行
額の汗と みだれた髪が
退っ引きならぬ 追っ手駆け

峠を越えて 逃げ延びて
縄張り外まで 追えやせぬ
山に夕陽が 落ちる頃
奈良井の宿に 灯りがともり
水が打たれた 石畳
人目憚(はばか)る 不義理の二人
路地裏辺り 宿探し

「ここまで来れば縄張りの外！
追ってはこれめえ」

ゆっくり宿で 湯に浸かり
昼間の疲れを 呑み癒す
外が何やら 騒がしく
人の足音 こちらに迫り
階段上がる バタバタと
あたいが防ぐ あんたは逃げて
これで最後たあ 甲斐もなし

「木曾の大橋あったなら
奈良井の川を渡れたものを」